

XI_1. 理解度からみた各項目の評価（項目間クロス集計・相関分析）

全体理解度（問F）と、それ以外の全学共通設問 問A～問Hのクロス集計を行うことで、理解度における各設問ごとの評価を集計した。

その結果、全ての設問において「そう思う（計）」のスコアが最も高いのは、最も高い理解度を示す「かなり理解できた」層であった。また、理解度が下がるにつれて、各設問の「そう思う（計）」のスコアも低くなる。

更に、相関分析（※）を通して、クロス集計における割合の比較のみではわからない、各選択肢どうしの関係性の強弱が視覚的に明らかになった。

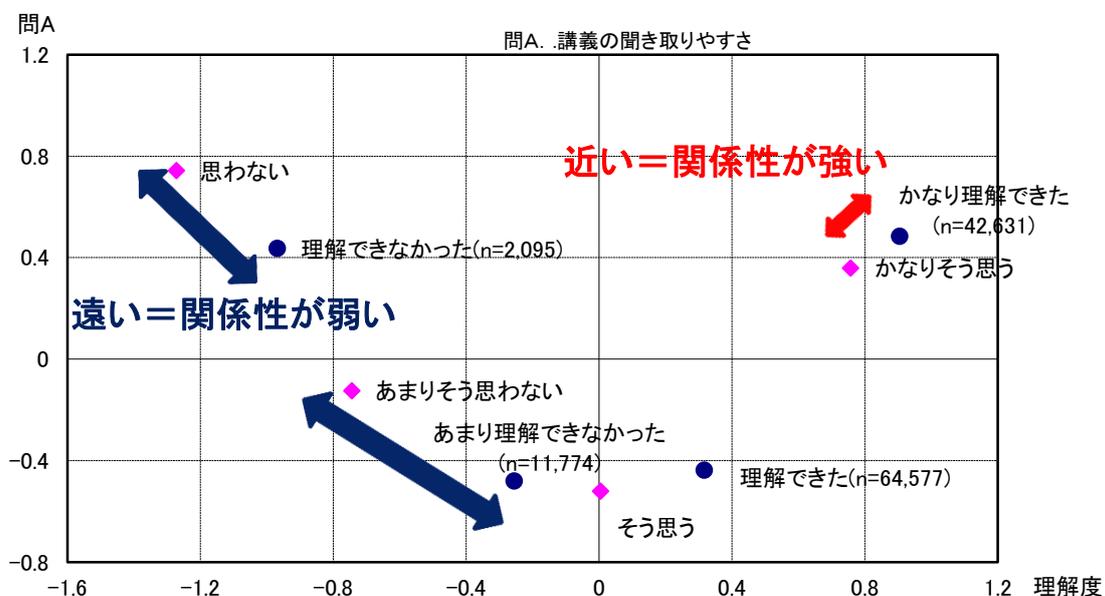
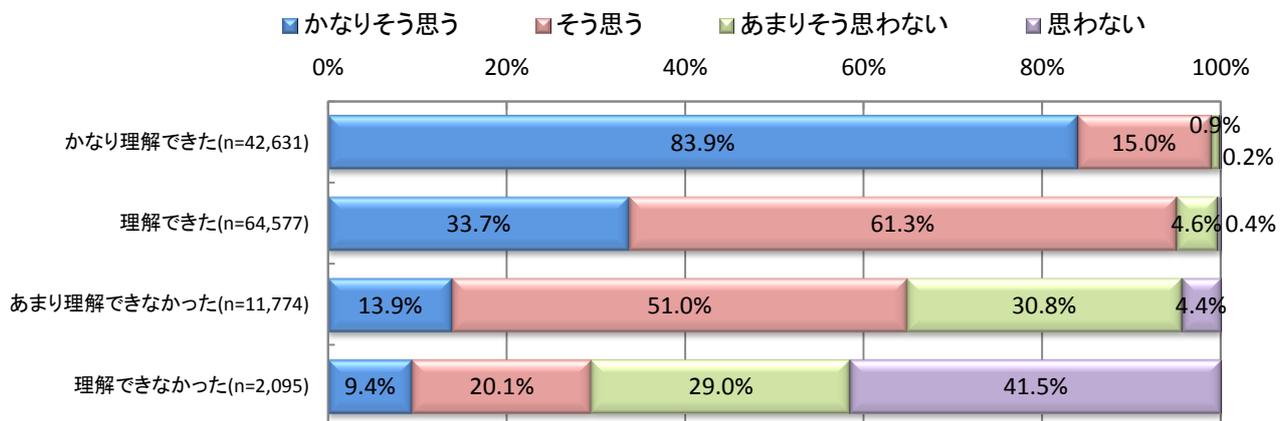
教員の働きかけ（問A～問C）は、「かなり理解できた」層との関係性が強くみられる。また、当然の結果ではあるが、授業の成果（問G、問H）と理解度は、総じて密接な関係があることがわかる。

一方、学生の授業に対する意欲（問D、問E）は、全体理解度に与える影響が強いが、「そう思う（計）」のスコアは、他項目より低い。

授業への意欲を高めることが、全体理解度の更なる向上につながるのであれば、授業の事前準備や事後の展開など、学生の主体的な学びを促し意欲を高めるために効果的な施策を検討することが、今後の課題といえる。

※相関分析とは：クロス集計結果を用いて、表側の要素と表頭の要素間の関係性を1枚のマップとして表したもの。数値ではなく、距離や位置で関係性の強弱をみることができる。

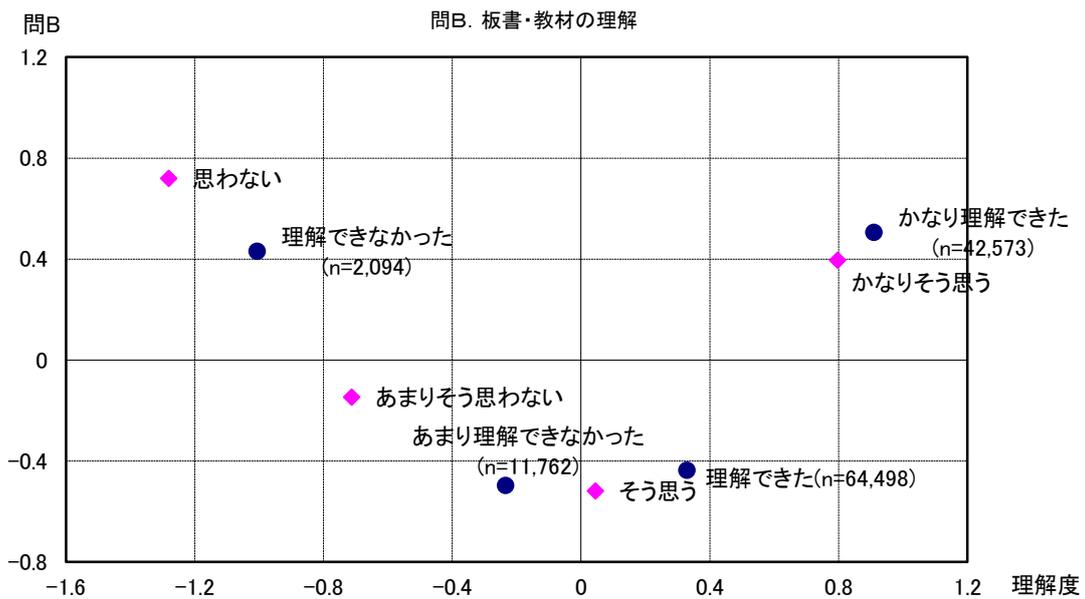
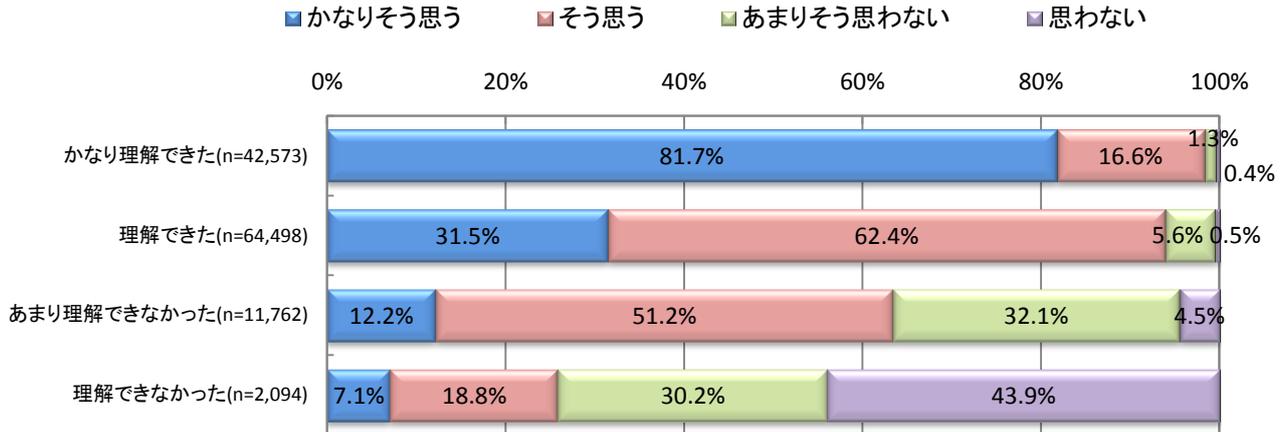
1. 教員の話や指示は明確で聞き取りやすかったですか（問A）



「講義の聞き取りやすさ」と「全体理解度」の、各要素の関係をみると、「かなりそう思う⇔かなり理解できた」は座標の距離が近く、「思わない⇔理解できなかった」「あまりそう思わない⇔あまり理解できなかった」は、遠いことがわかる。

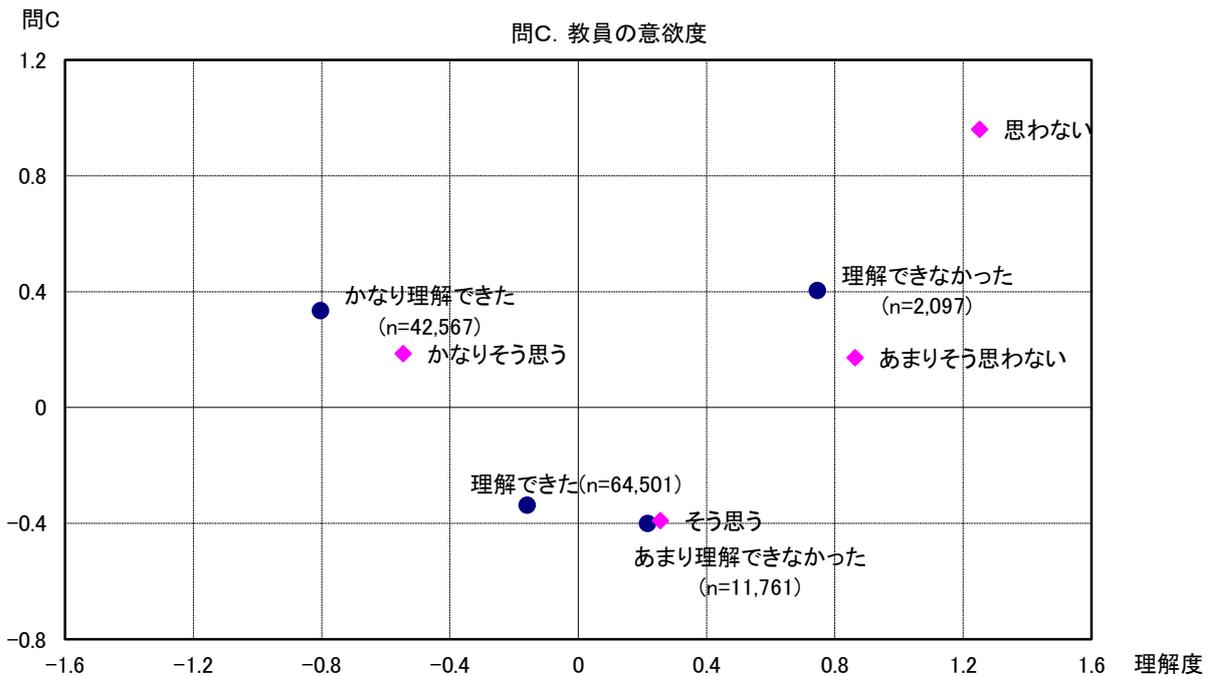
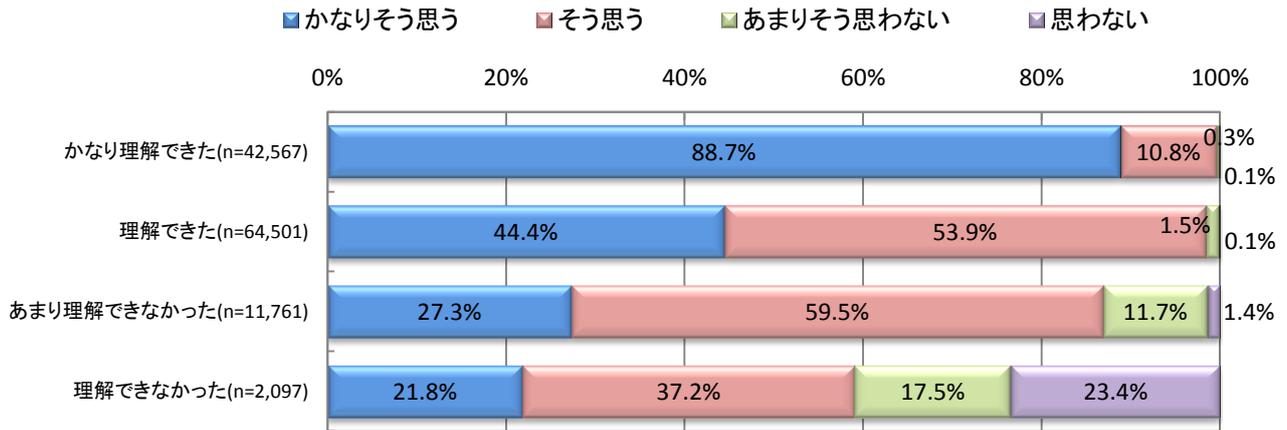
つまり、「講義が聞き取りやすい」と「理解できた」ことは、強い関係性があることがわかる。逆に、「講義が聞き取りにくい」と「理解度の低さ」との関係性は弱いといえる。

2. 板書や教材は理解の助けになりましたか（問B）



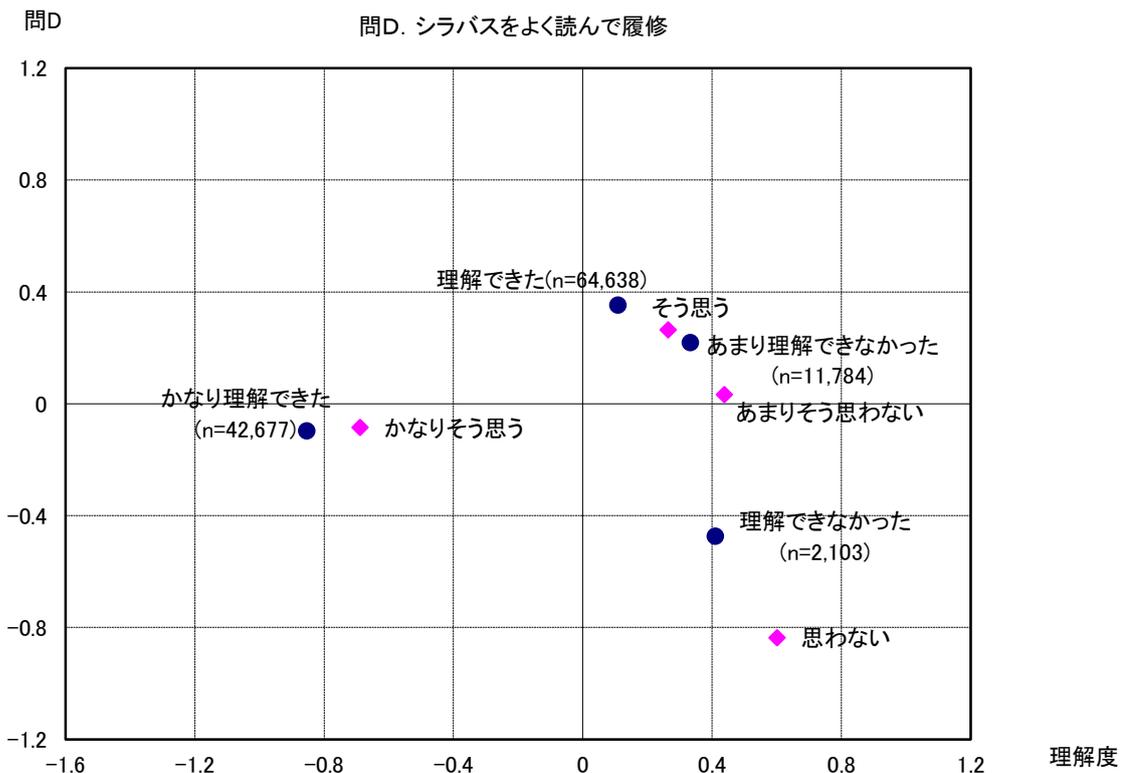
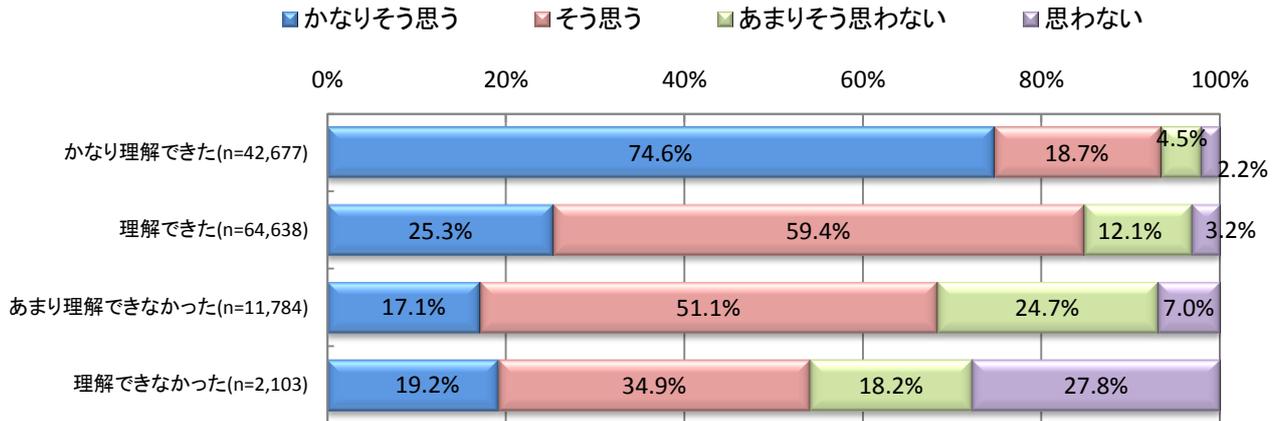
「板書・教材の理解」について、
 「かなりそう思う⇔かなり理解できた」に、強い関係性がみられた。
 一方で、板書や教材が理解の補助に不十分であることと、理解度の関係性は弱い。

3. 教員は意欲的に授業を進めていましたか (問C)



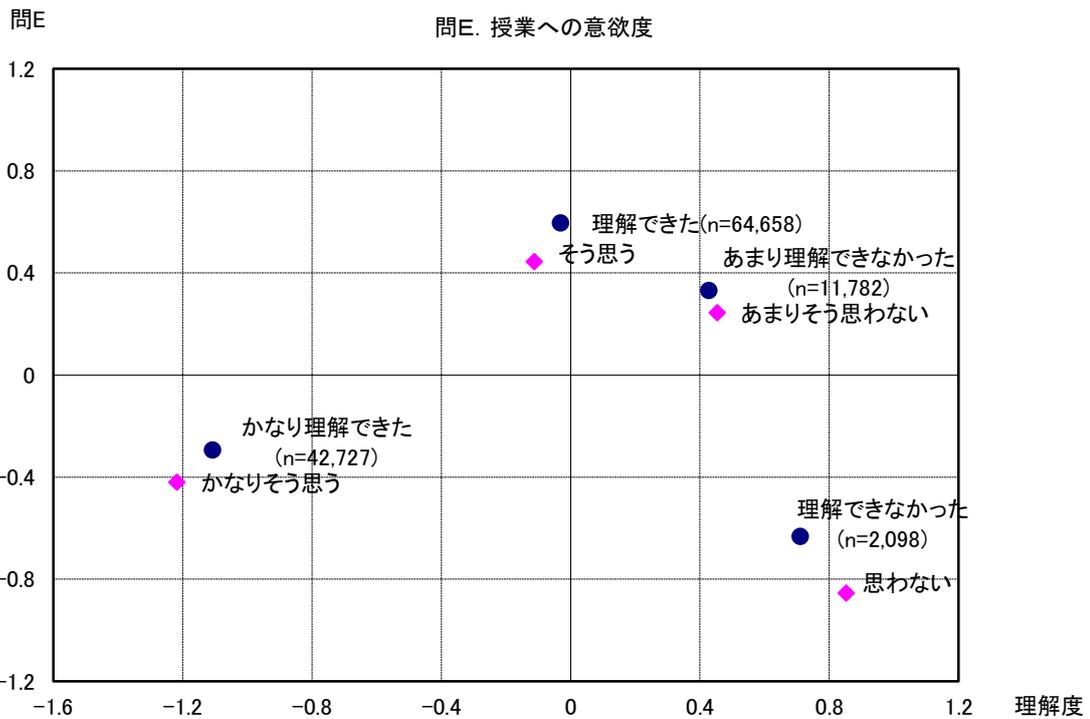
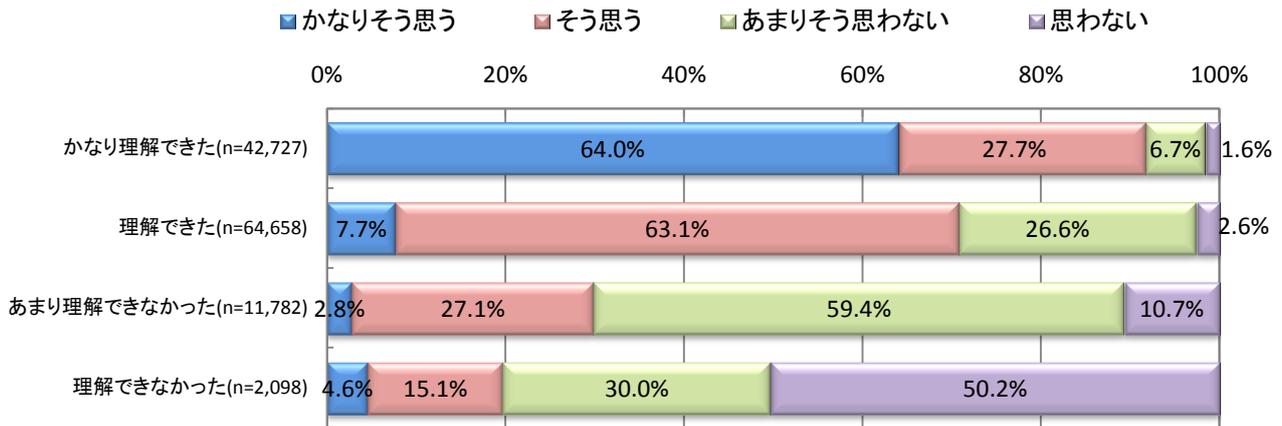
「教員の意欲」について、
 「かなりそう思う⇔かなり理解できた」に、やや強い関係性がある。
 しかしそれ以上に、
 「そう思う⇔あまり理解できなかった」の関係性が強い。
 これは、教員の意欲よりも、それ以外の要素が理解度に大きく影響することを意味する。この結果は、前年度と同様である。

4. シラバスをよく読んでこの授業を履修しましたか (問D)



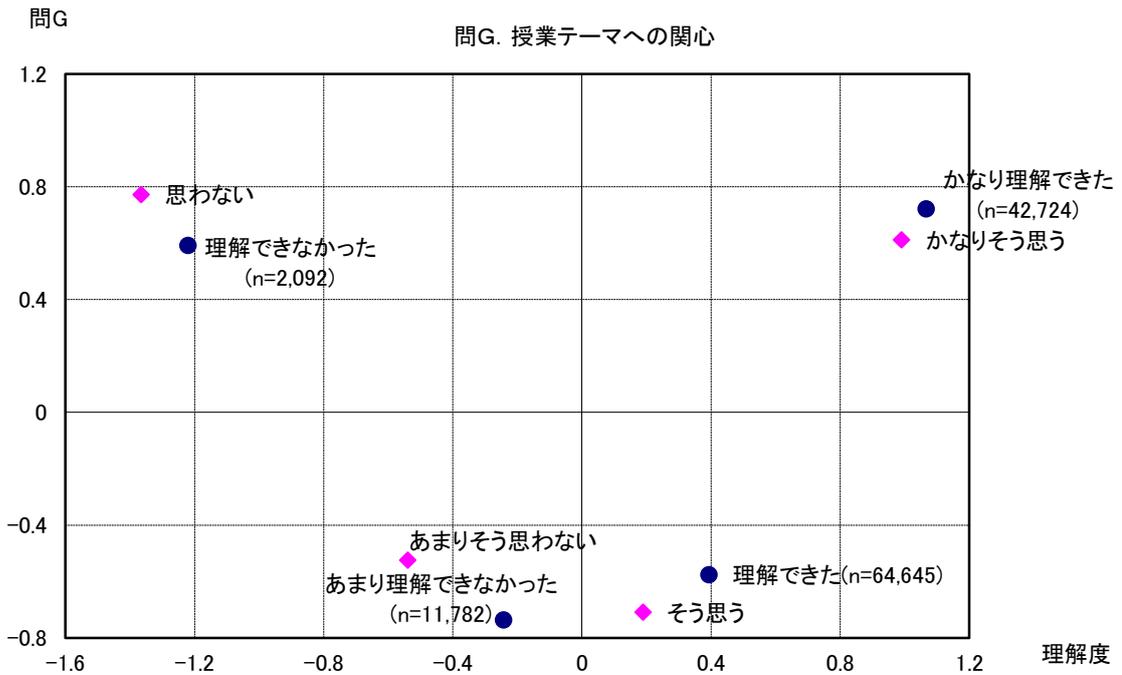
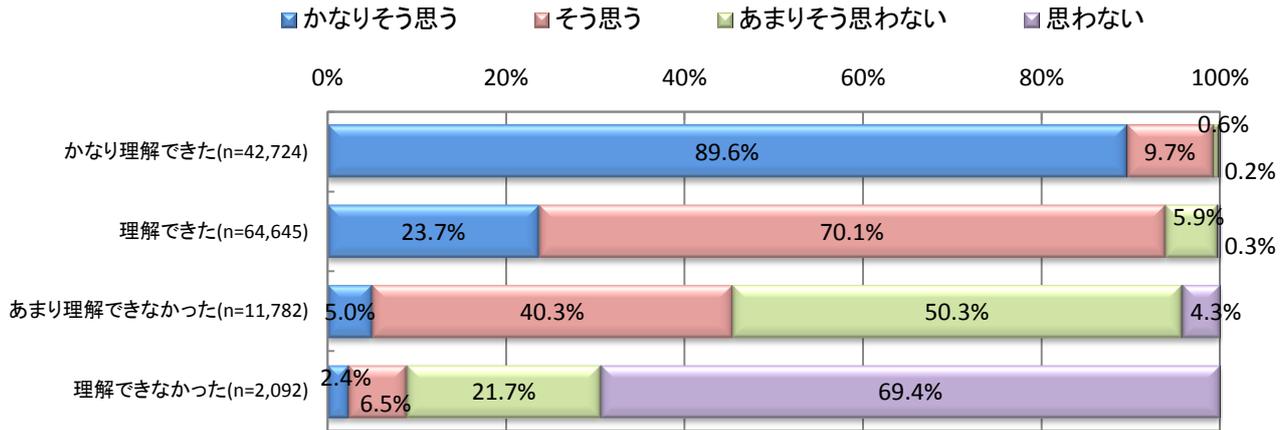
「シラバスをよく読んで履修」について、
 「かなりそう思う \Leftrightarrow かなり理解できた」
 「そう思う \Leftrightarrow 理解できた」に、強い関係性がある。
 しかしそれ以上に、
 「そう思う \Leftrightarrow あまり理解できなかった」の関係性が強い。
 これは、シラバスをよく読んで履修したかどうかよりも、それ以外の要素が、理解度に影響することを意味する。

5. 予習・復習するなど授業に意欲的に取り組みましたか (問E)



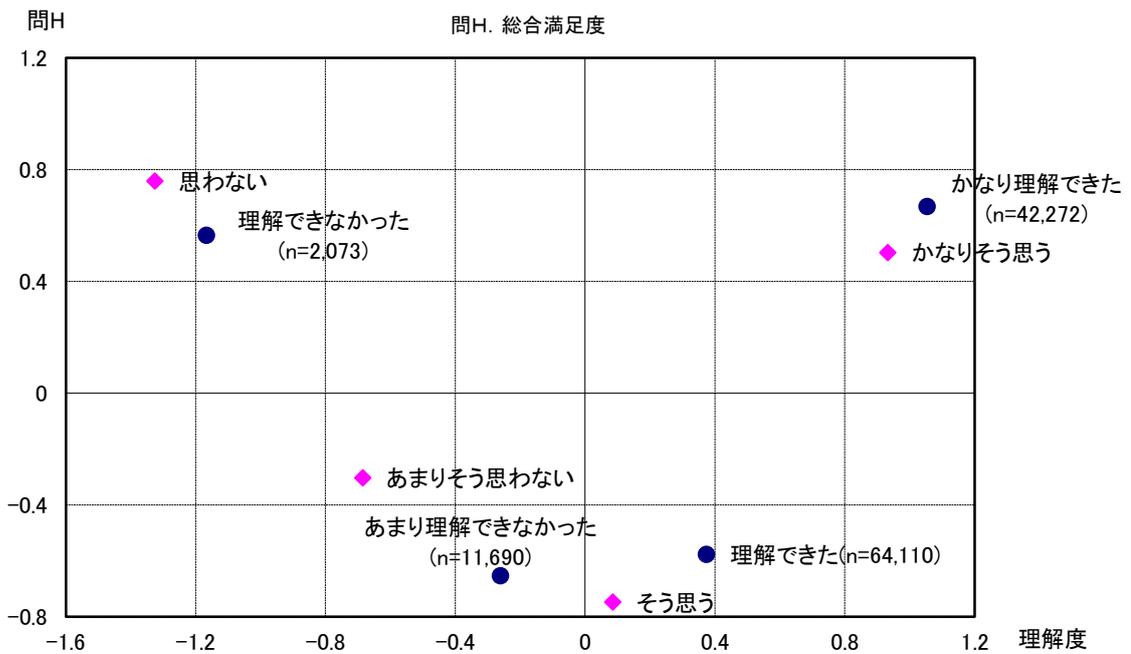
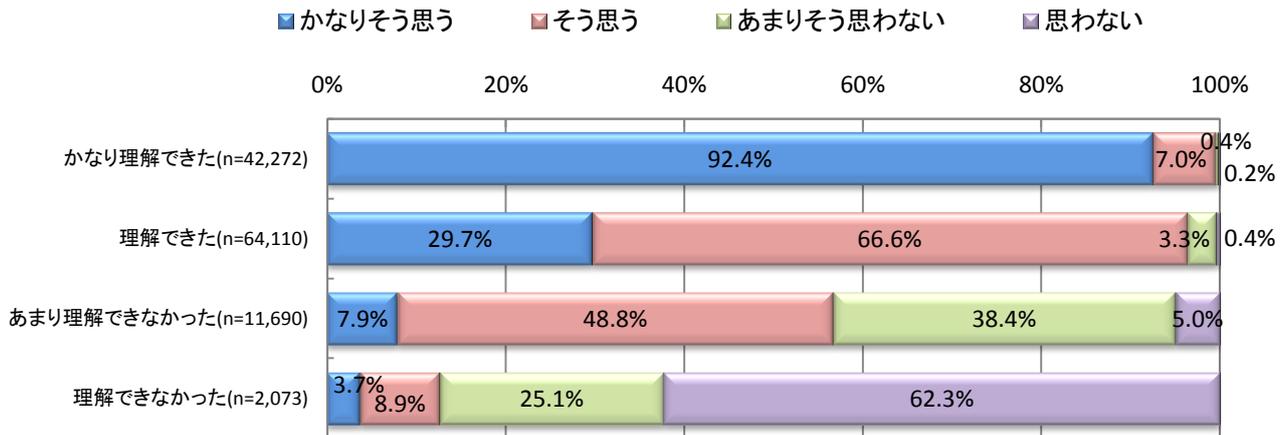
「授業への意欲度」について、
 「かなりそう思う⇔かなり理解できた」
 「そう思う⇔理解できた」
 「あまりそう思わない⇔あまり理解できなかった」
 「思わない⇔理解できなかった」の、いずれにおいても強い関係性があり、授業への意欲と理解度は、直結していることがわかる。

6. 授業のテーマへの関心が高まりましたか (問G)



「授業テーマへの関心」について、
 「関心⇔理解」の関係性は、総じて強い。
 授業への関心が高いことは、より高い理解につながるといえる。

7. この授業を履修して良かったですか (問H)



「総合満足度」について、
「満足⇔理解」の関係性は、総じて強い。

XI_2. 満足度からみた各項目の評価（項目間クロス集計・コレスポネンス分析）

総合満足度(問H)と、それ以外の全学共通設問 問A～問G のクロス集計を行うことで、満足度における各設問ごとの評価を集計した。

その結果、全ての設問において、「そう思う(計)」のスコアが最も高いのは、最も高い満足度を示す「かなり満足できた」層であった。また、満足度が下がるにつれて、各設問の「そう思う(計)」のスコアも低くなる。

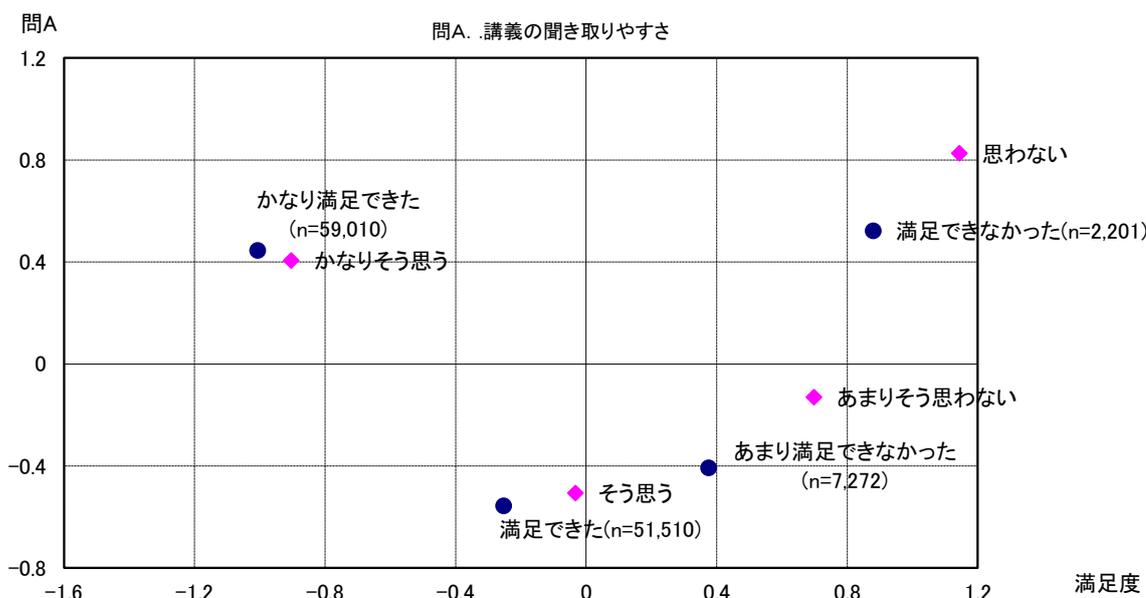
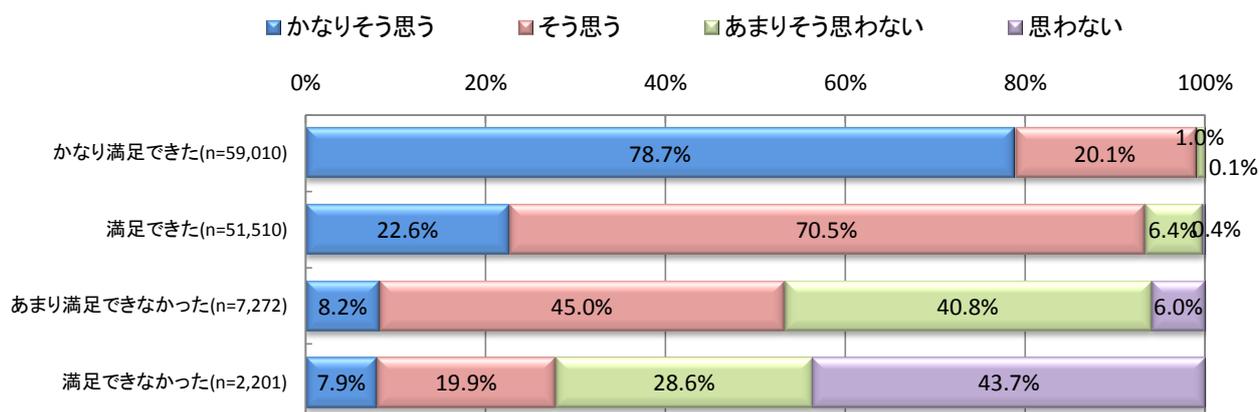
更に、コレスポネンス分析を通して、クロス集計における割合の比較のみではわからない、各選択肢どうしの関係性の強弱が視覚的に明らかになった。

教員の働きかけ(問A～問C)は、「かなり満足できた」層との関係性が強くみられる。また、授業の成果(問F、問G)と満足度は、総じて密接に関係していることがわかる。

一方、学生の授業に対する意欲(問D、問E)は、総合満足度に与える影響が強いが、「そう思う(計)」のスコアは、他項目より低い。

授業への意欲を高めることが、総合満足度の更なる向上につながるのであれば、授業の事前準備や事後の展開など、学生の主体的な学びを促し意欲を高めるために効果的な施策を検討することが、今後の課題といえる。

1. 教員の話や指示は明確で聞き取りやすかったですか（問A）



「講義の聞き取りやすさ」について、

「かなりそう思う⇔かなり満足できた」には、非常に強い関係性がみられる。

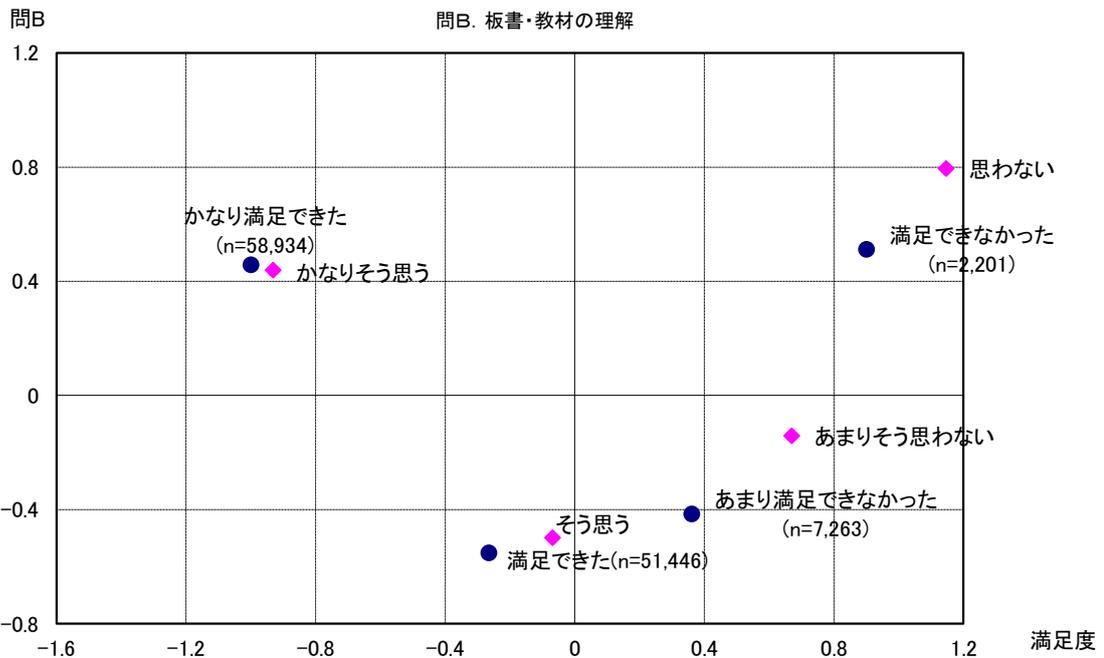
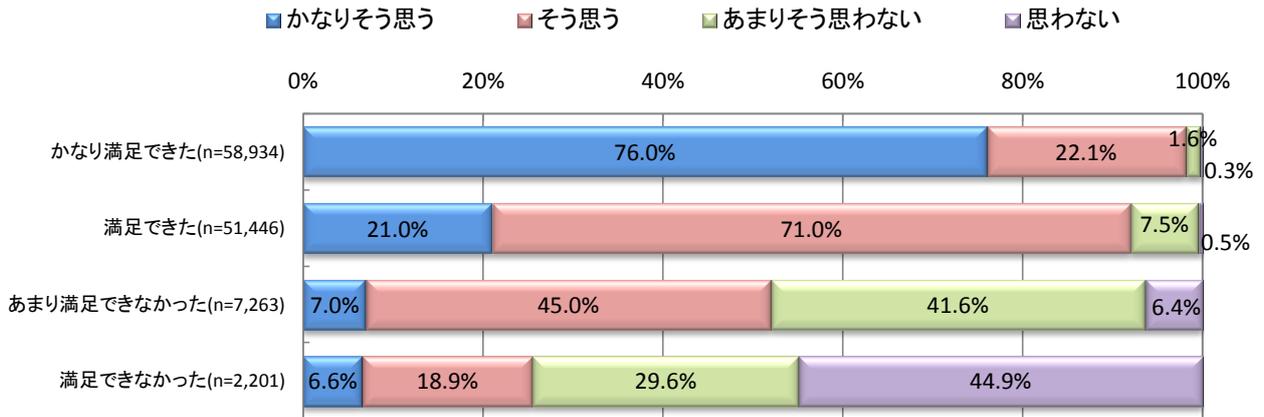
「そう思う⇔満足できた」にも、強い関係性がみられる。

一方で、

「あまりそう思わない⇔あまり満足できなかった」

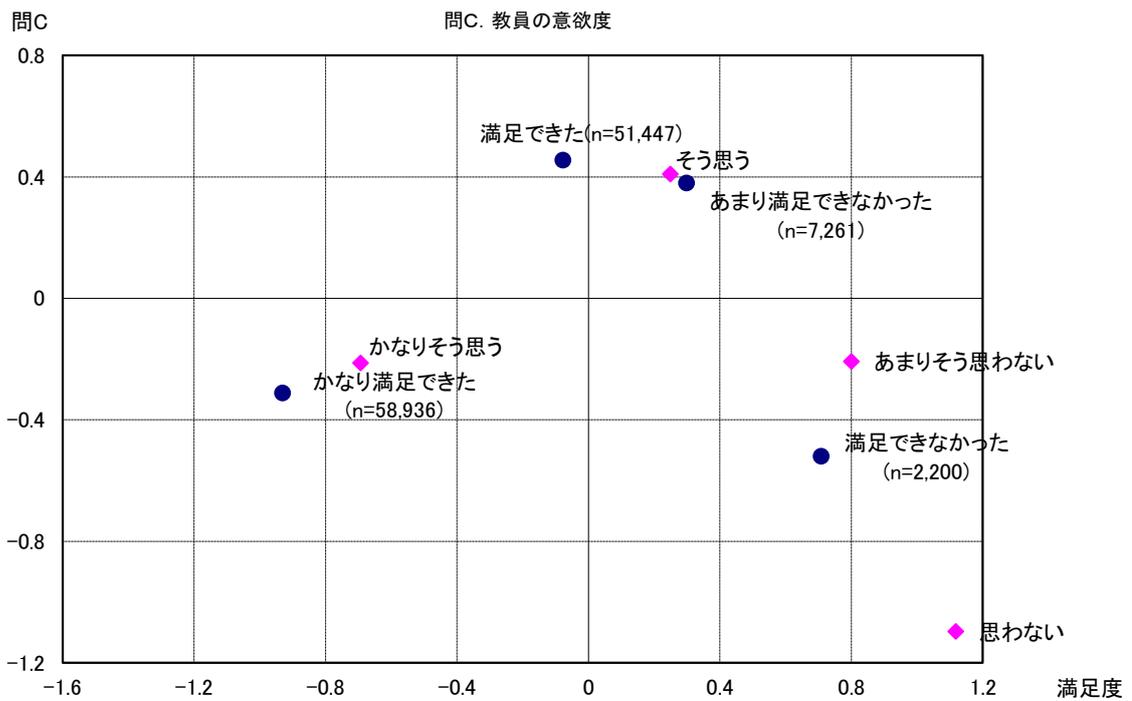
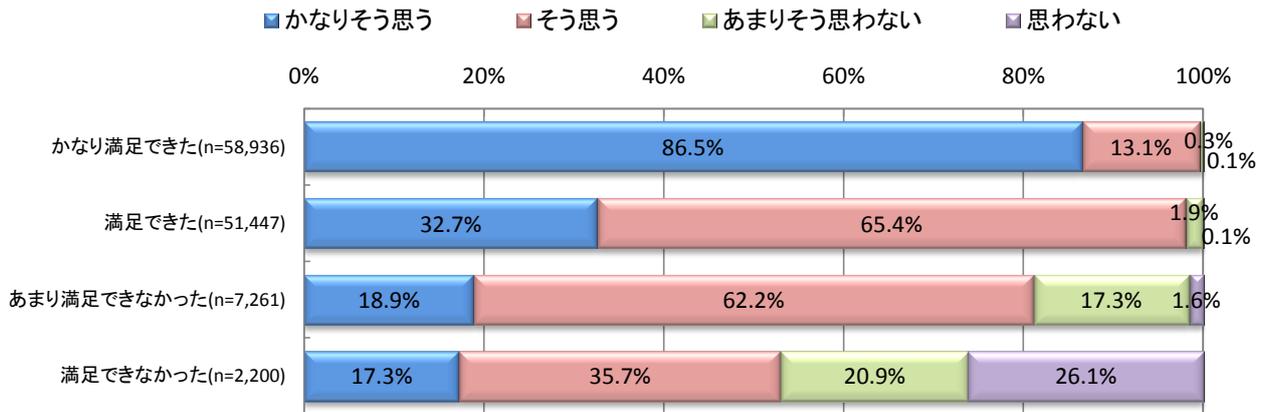
「思わない⇔満足できなかった」の関係性は弱く、講義が聞き取りにくいことと満足度の間には、関係性はみられない。

2. 板書や教材は理解の助けになりましたか（問B）



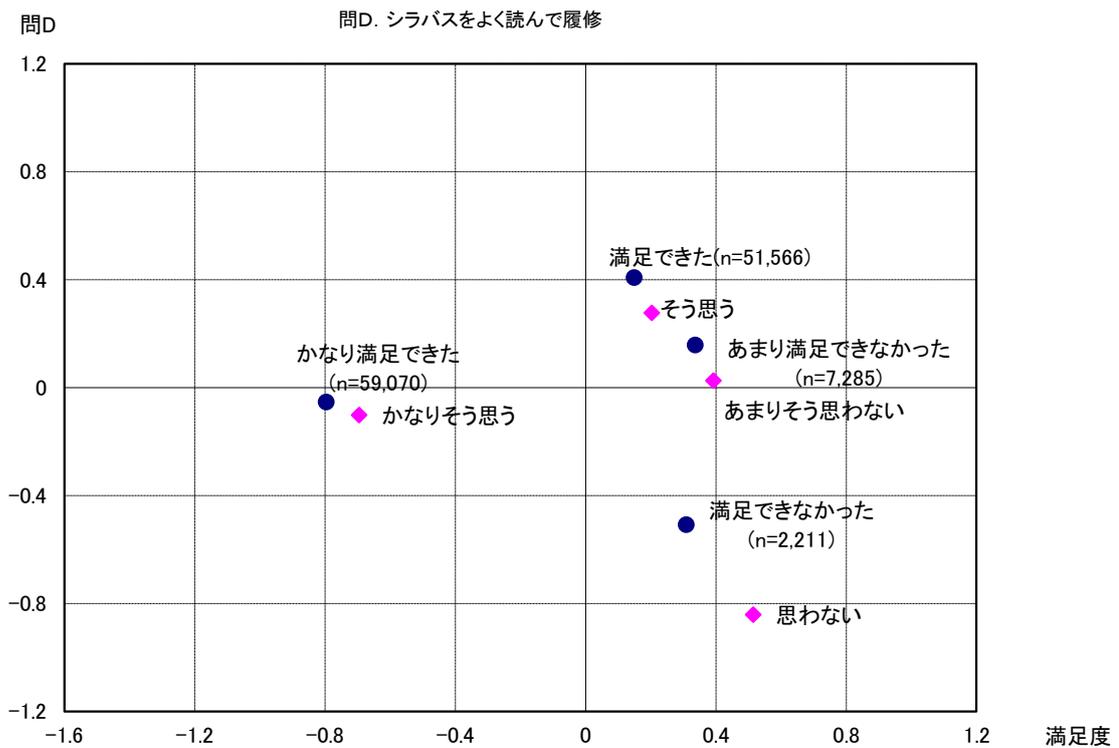
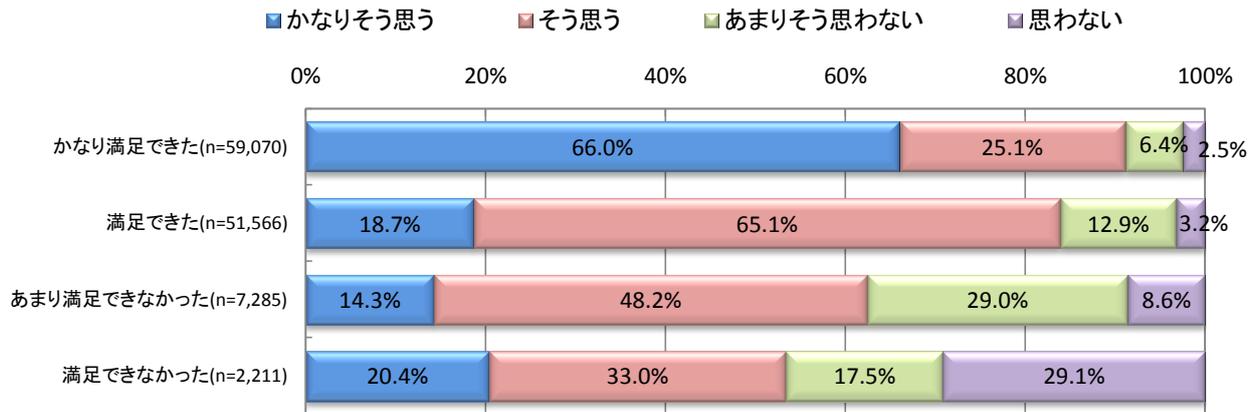
「板書・教材の理解」について、
 「かなりそう思う⇔かなり満足できた」に、非常に強い関係性がみられた。
 「そう思う⇔満足できた」にも、強い関係性がみられた。
 一方で、
 「あまりそう思わない⇔あまり満足できなかった」
 「思わない⇔満足できなかった」の関係性は弱く、板書や教材が理解の補助に不十分であることと、満足度の間には、関係性はみられない。

3. 教員は意欲的に授業を進めていましたか (問C)



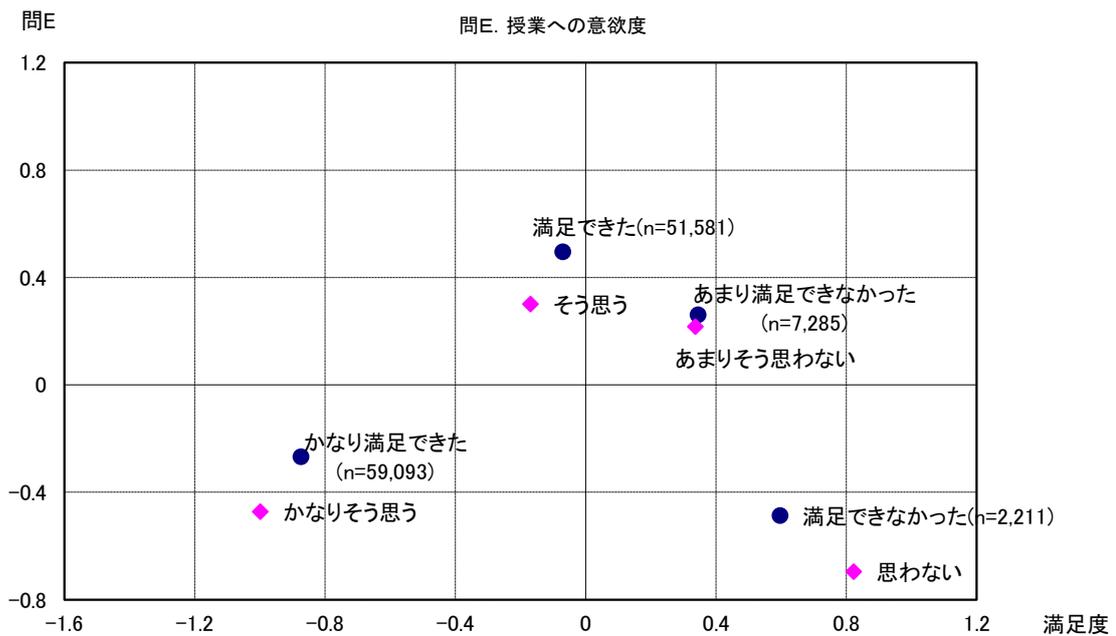
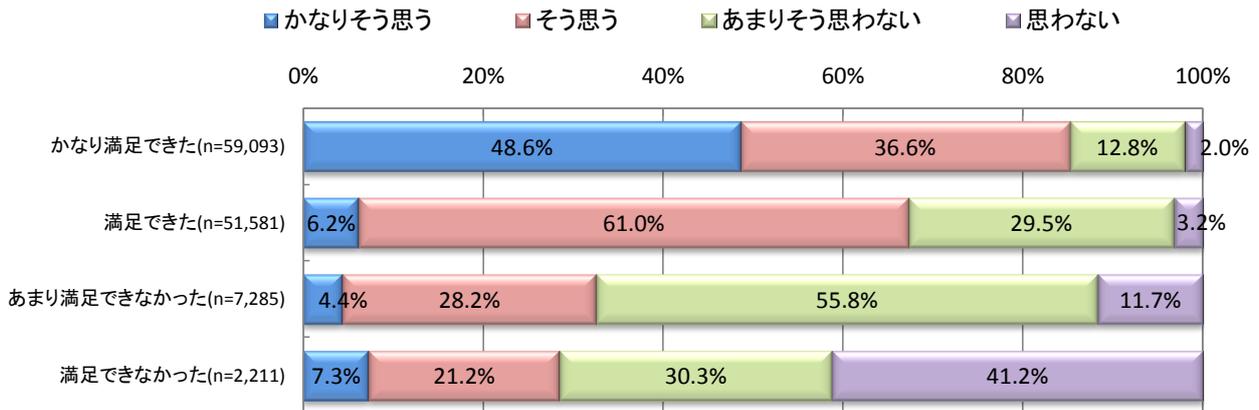
「教員の意欲」について、
 「かなりそう思う⇔かなり満足できた」に、やや強い関係性があるが、
 それ以上に
 「そう思う⇔あまり満足できなかった」の関係性が強い。
 これは、教員の意欲よりも、それ以外の要素が満足度に大きく影響することを意味する。

4. シラバスをよく読んでこの授業を履修しましたか (問D)



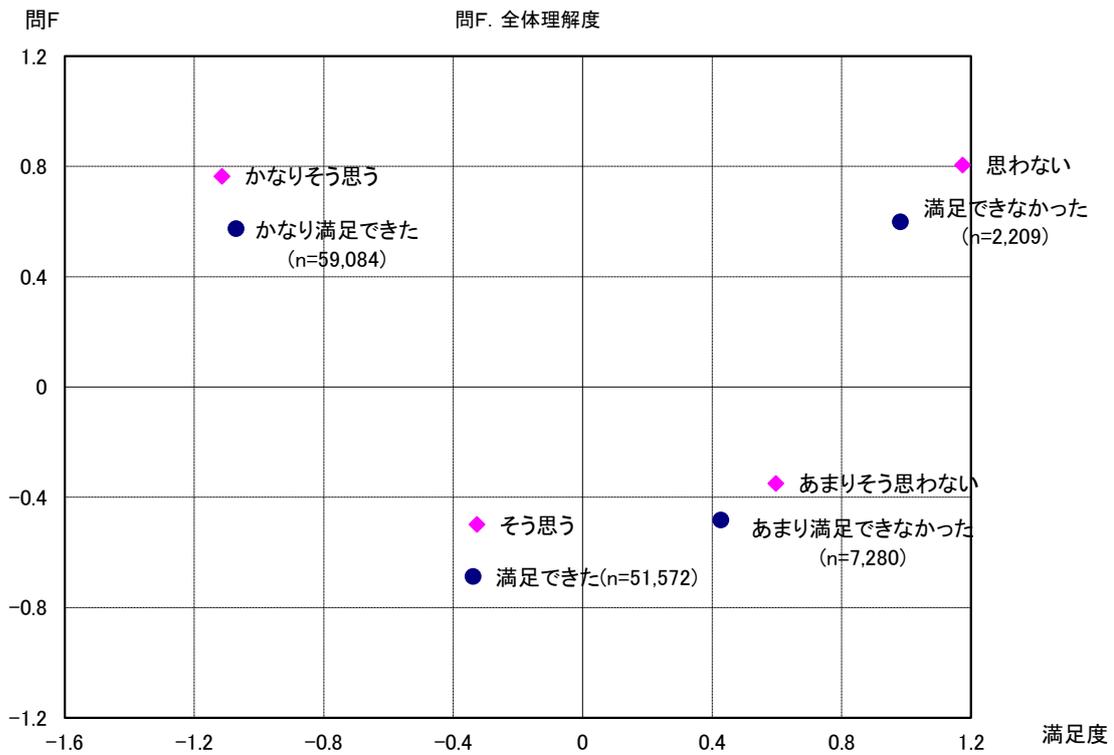
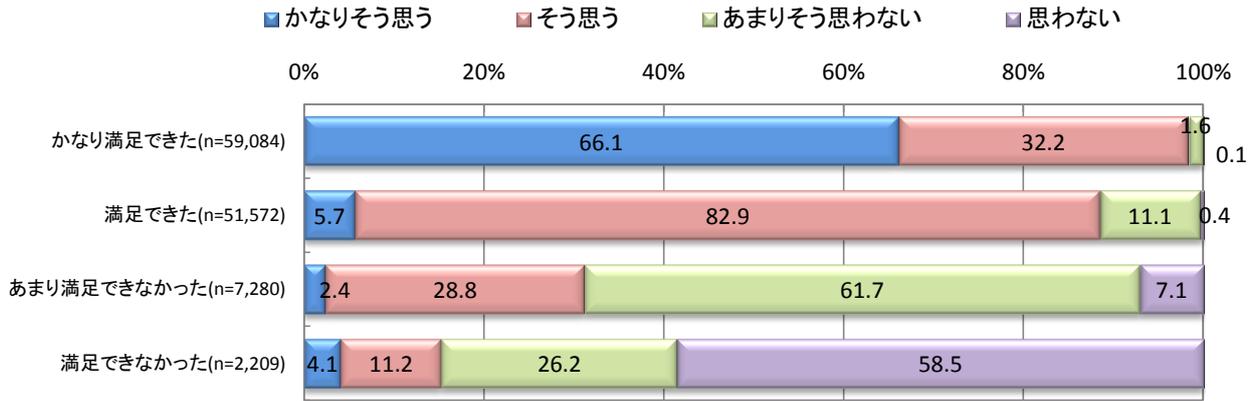
「シラバスをよく読んで履修」について、
 「かなりそう思う⇔かなり満足できた」
 「そう思う⇔満足できた」の関係性が強いが、
 「思わない⇔満足できなかった」の関係性は弱い。

5. 予習・復習するなど授業に意欲的に取り組みましたか (問E)



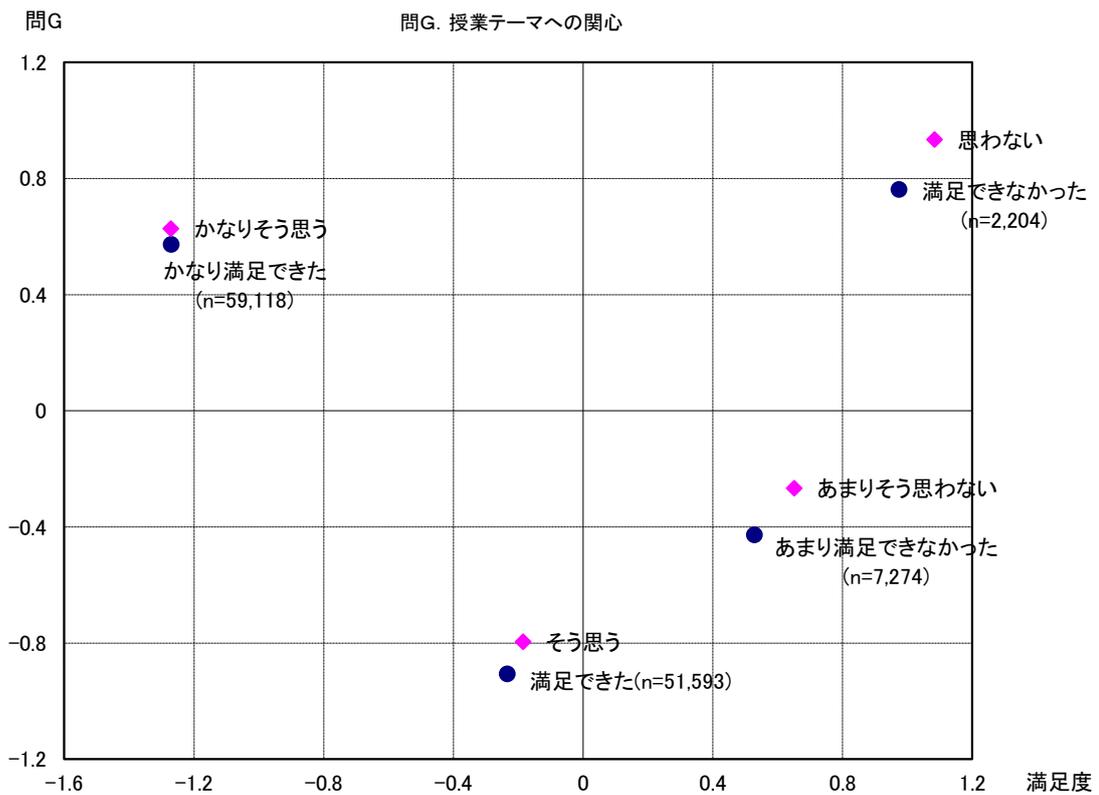
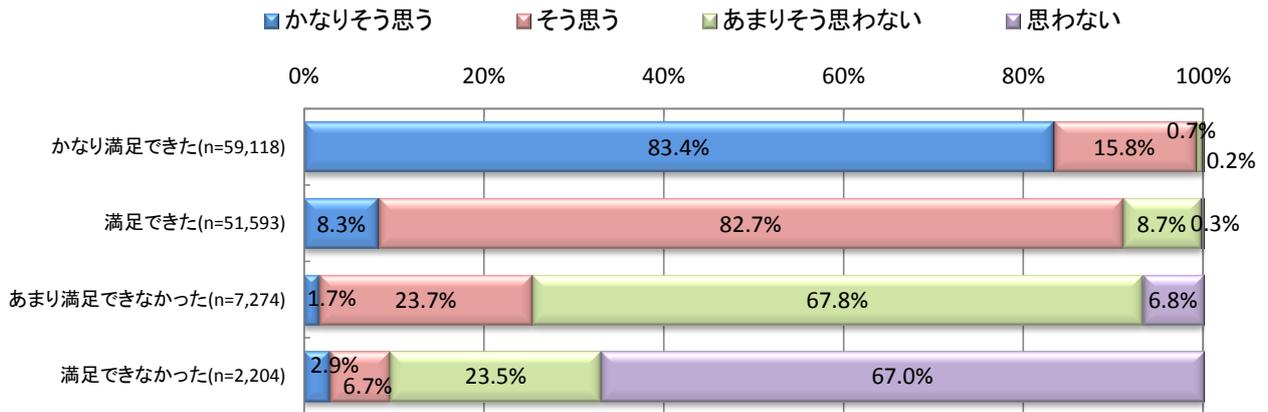
「授業への意欲度」について、
 「かなりそう思う⇔かなり満足できた」
 「そう思う⇔満足できた」
 「あまりそう思わない⇔あまり満足できなかった」
 「思わない⇔満足できなかった」
 いずれにおいても強い、もしくはやや強い関係性が存在する。
 全体理解度と同様に、授業への意欲は、総合満足度にも直結していることがわかる。

6. この授業を理解できましたか (問F)



「全体理解度」について、
「理解⇔満足」の関係性は、総じて強い。

7. 授業のテーマへの関心が高まりましたか (問G)



「授業テーマへの関心」について、
「関心⇔満足」の関係性は、総じて強い。

XII. クラス規模別評価

クラス規模別に、全学共通設問である問A～問Iについて集計した。

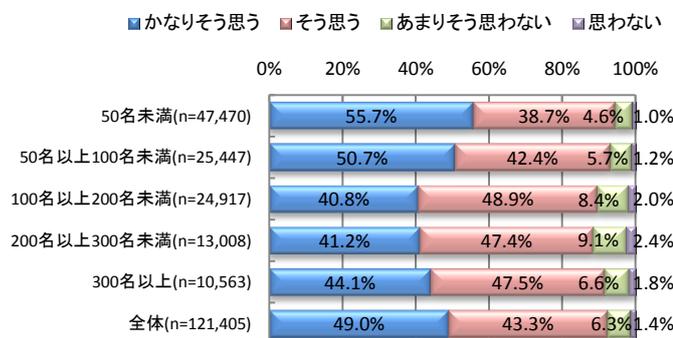
多くの設問でみられる傾向として、クラス規模「50名未満」が最もスコアが高く、次いで「50名以上100名未満」で全体と同じ程度まで下がり、100名を超えると横ばいとなる点があげられる。また、「300名以上」では微増している。

一方で、「出席状況(問I)」のTop2Box(「すべて出席した」+「ほとんど出席した」)は、いずれのクラス規模も80%を超えており、クラス規模による大きな差異はなかった。他に、クラス規模による影響があまりみられなかった設問は、問D「シラバスをよく読んで履修」がある。

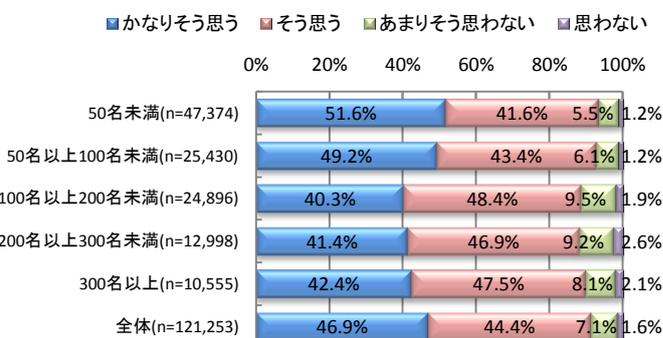
ただし、「50名未満」のクラス規模が、それ以上のクラス規模と比較して、「かなりそう思う」スコアが高い傾向にあることは、平成23年度から変わっていない。

今後は、クラス規模50名未満のスコアが高い要因の中に大規模クラスへ流用できるポイントがないか、300名以上でスコアが上昇する要因は何か、などを探り分析することが、更なる評価の改善につながるという。

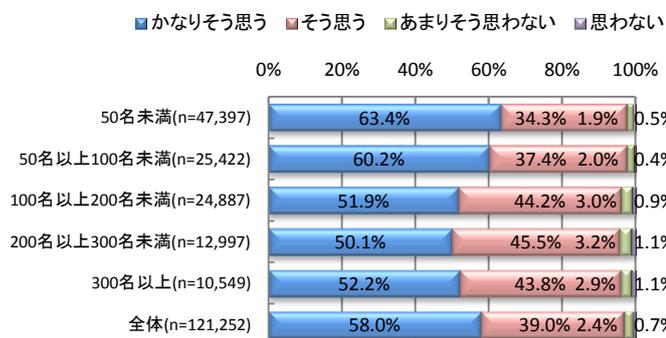
問A. 講義の聞き取りやすさ



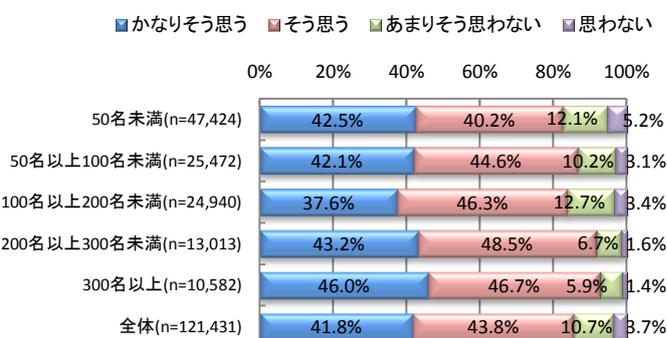
問B. 板書・教材の理解



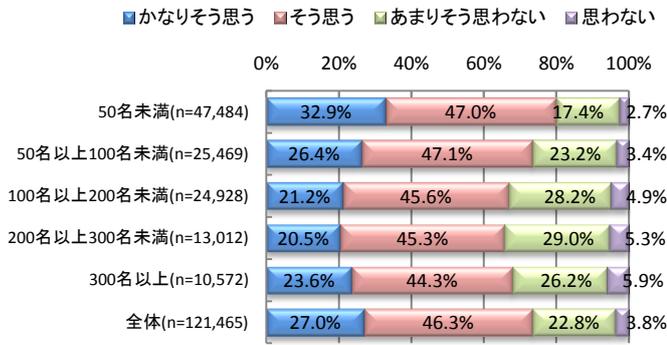
問C. 教員の意欲



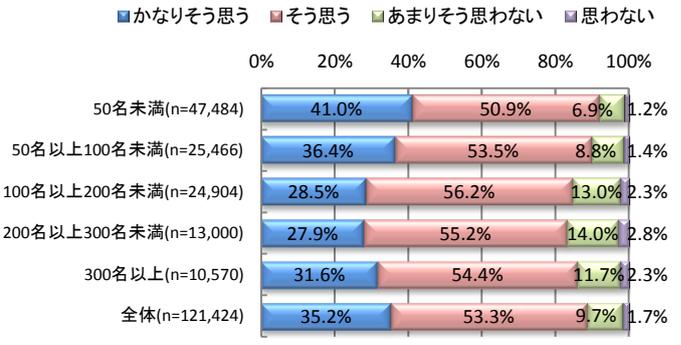
問D. シラバスをよく読んで履修



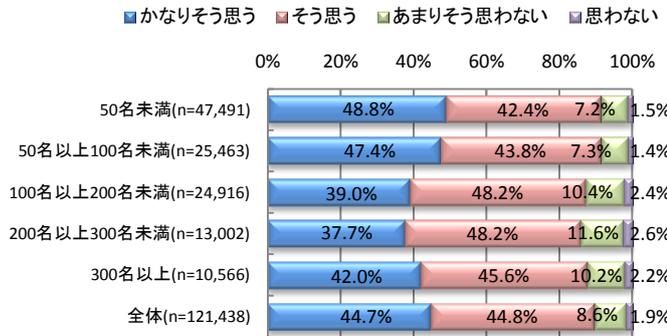
問E. 授業への意欲



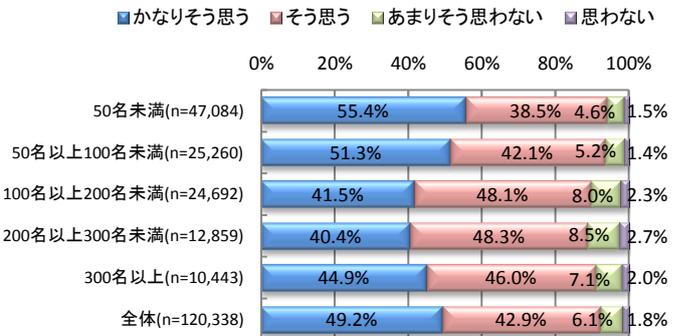
問F. 全体理解度



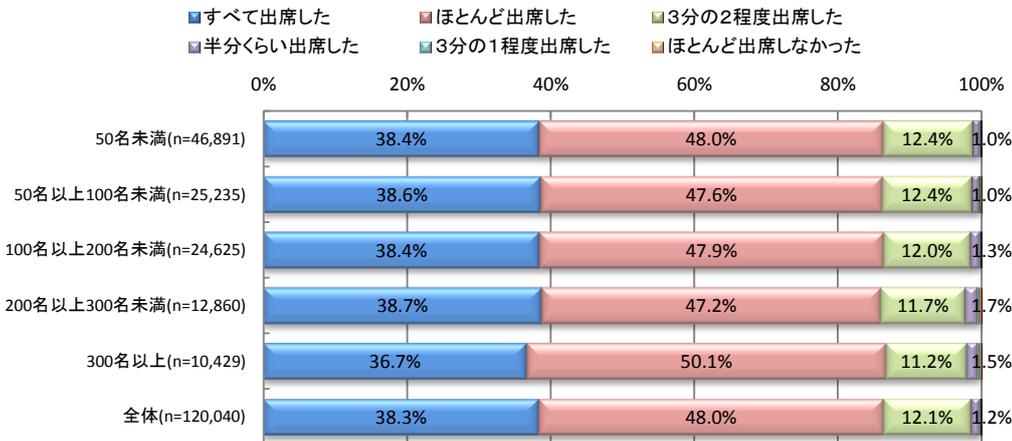
問G. 授業テーマへの関心



問H. 総合満足度



問I. 出席状況



学部・学科・諸課程別 分析編

<文学部>

●回答者プロフィール

【出席率】

文学部の出席状況は、全て出席36.6%、ほとんど出席48.8%、2/3程度出席13.1%、半分くらい出席1.0%、1/3程度出席0.2%、ほとんど出席せず0.2%であった。

●学生の理解度評価：各項目別

【学生の理解度(学部全体)】

「そう思う(計)」(「かなりそう思う」+「そう思う」、以下同じ)は89.6%と、平均をやや上回った。
また、「思わない」と回答した学生は1.4%だった。

【学生の理解度(クラス規模別)】

「そう思う(計)」は、50名未満のクラス規模で最も高く92.1%であった。次いで高いのは、300名以上のクラス規模で91.4%である。最も低いのは、100名以上200名未満のクラス規模で85.3%であった。

【学生の理解度(学年別)】

「そう思う(計)」が最も高かったのは「4年」(91.5%)で、最も低かったのは「1年」(86.7%)だった。学年による大きな差はみられない。

【学生の理解度(学科別)】

「そう思う(計)」が最も高かった学科は「外国語文化学科」(90.9%)で、最も低かったのは「哲学科」(86.4%)であった。学科による大きな差異は、みられなかった。

【学生の理解度(曜日・時限別)】

「そう思う(計)」が最も高かった曜日は「月曜」(90.8%)で、最も低かったのは「水曜」(88.5%)であったが、曜日による大きな差異はみられなかった。

「そう思う(計)」が最も高かった時限は「6時限」(92.7%)で、最も低かったのは「5時限」(88.1%)であったが、時限による大きな差異はみられなかった。

【学生の理解度(科目区分別)】

選択科目と必修科目で、「そう思う(計)」の割合を各学科別にみると、選択科目のほうが高いのは日本文学科(5ポイント差)、中国文学科(4.0ポイント差)、哲学科(5.8ポイント差)。

必修科目のほうが高いのは、外国語文化学科(2.7ポイント差)と、史学科(4.9ポイント差)。

【学生の理解度と他の項目との相関】

上位5項目は、次のとおりであった。

授業に対する理解度と、「授業テーマへの関心度」「総合満足度」は、関係性があることがわかる。

問G. 授業テーマへの関心度	0.6979
問H. 総合満足度	0.6709
問E. 授業への意欲度	0.5760
問B. 板書・教材の理解	0.5526
問A. 講義の聞き取りやすさ	0.5402

※相関係数とは：2つの要因についてどれくらい関係が強いかを示す指標。相関係数は-1から+1の間の数値をとり、相関係数と相関の高さの関係は、一般的に以下のとおり。

相関係数：相関の高さ
1.0～0.7：高い相関がある
0.7～0.5：かなり高い相関がある
0.5～0.4：中程度の相関がある
0.4～0.3：ある程度の相関がある
0.3～0.2：弱い相関がある
0.2～0.0：ほとんど相関がない

●学生の満足度評価：各項目別

【学生の満足度(学部全体)】

「そう思う(計)」(「かなりそう思う」+「そう思う」、以下同じ)は93.5%で、神道文化学部とならび、最も高かった。また、「思わない」と回答した学生は1.3%で、平均を下回った。

【学生の満足度(クラス規模別)】

「そう思う(計)」が最も高いのは、300名以上のクラス規模で96.0%だった。次いで高いのは、50名未満のクラスの規模で95.2%だった。文学部では、クラス規模による大きな満足度の差はみられなかった。

【学生の満足度(学年別)】

「そう思う(計)」が最も高かったのは「4年」(95.1%)で、最も低かったのは「1年」(91.8%)だった。学年が上がるにつれ、満足度は高くなる傾向にある。

また、すべての学年で、「そう思う(計)」が90%を超えており、学年による大きな差はみられない。

【学生の満足度(学科別)】

「そう思う(計)」が最も高かった学科は「日本文学科」(93.8%)で、最も低かったのは「哲学科」(91.8%)であったが、学科による大きな差異はみられなかった。

【学生の満足度(曜日・時限別)】

「そう思う(計)」が最も高かった曜日は「月曜」(94.4%)で、最も低かったのは「水曜」(91.8%)であったが、曜日による大きな差異はみられなかった。

「そう思う(計)」が最も高かった時限は「7時限」(95.7%)で、最も低かったのは「3時限」(92.5%)であったが、時限による大きな差異はみられなかった。

【学生の満足度(科目区分別)】

選択科目と必修科目で、「そう思う(計)」の割合を各学科別にみると、選択科目のほうが高いのは日本文学科(2.5ポイント差)、中国文学科(3.7ポイント差)。

必修科目のほうが高いのは、外国語文化学科(2.0ポイント差)と、史学科(3.5ポイント差)、哲学科(0.6ポイント差)。

【学生の満足度と他の項目との相関】

上位5項目は、次のとおりであった。

総合満足度と、「授業テーマへの関心度」「全体理解度」は、関係性があることがわかる。特に「授業テーマへの関心度」との間には、高い相関がみられる。

問G. 授業テーマへの関心度	0.7889
問F. 全体理解度	0.6709
問A. 講義の聞き取りやすさ	0.6129
問B. 板書・教材の理解	0.6105
問C. 教員の意欲度	0.5511

<法学部>

●回答者プロフィール

【出席率】

法学部の出席状況は、全て出席34.0%、ほとんど出席48.7%、2/3程度出席13.9%、半分くらい出席2.6%、1/3程度出席0.6%、ほとんど出席せず0.3%であった。

●学生の理解度評価：各項目別

【学生の理解度(学部全体)】

「そう思う(計)」「かなりそう思う」+「そう思う」、以下同じ)は84.3%と、平均を4.2ポイント下回った。また、「思わない」と回答した学生は2.4%で、平均を0.7ポイント上回った。

【学生の理解度(クラス規模別)】

「そう思う(計)」は50名未満のクラス規模で92.5%と最も高く、クラス規模が大きくなるにつれ理解度が低下する。50名未満のクラス規模で理解度が最大となる理由として考えられるのは、小規模の方が学生への理解配慮が行き届きやすいことや、教員と学生間のコミュニケーションの取りやすいこと等があげられる。

【学生の理解度(学年別)】

「そう思う(計)」が最も高かったのは「4年」(88.4%)で、最も低かったのは「2年」(80.9%)だった。「1年」「2年」は平均よりやや低く、「3年」「4年」は平均よりやや高い、という2層に分かれているのが、法学部の特徴である。

【学生の理解度(学科別)】

「そう思う(計)」が最も高かった学科は「法律学科政治専攻」(91.0%)で、最も低かったのは「法律学科」(82.7%)であった。

学科により、やや差異がみられる。

【学生の理解度(曜日・時限別)】

「そう思う(計)」が最も高かった曜日は「土曜」(90.1%)で、最も低かったのは「月曜」(78.5%)であった。曜日により、ややばらつきがみられる。

「そう思う(計)」が最も高かった時限は「7時限」(93.7%)で、最も低かったのは「6時限」(80.1%)であった。時限により、ややばらつきがみられる。

【学生の理解度(科目区分別)】

必修科目は「政治専攻」のみのため参考値となるが、「そう思う(計)」について、選択科目より必修科目が12.3ポイント高く、大きな差異がみられた。

【学生の理解度と他の項目との相関】

上位5項目は次のとおりであった。

理解度と、「授業テーマへの関心度」「総合満足度」は、関係性があることがわかる。特に「授業テーマへの関心度」との間には、高い相関がある。

問G. 授業テーマへの関心度	0.7292
問H. 総合満足度	0.7134
問E. 授業への意欲度	0.5980
問B. 板書・教材の理解	0.5645
問A. 講義の聞き取りやすさ	0.5624

●学生の満足度評価：各項目別

【学生の満足度(学部全体)】

「そう思う(計)」「かなりそう思う」+「そう思う」、以下同じ)は89.7%と平均を下回った。また、「思わない」と回答した学生は2.3%で、平均を上回った。

【学生の満足度(クラス規模別)】

「そう思う(計)」が最も高いのは、50名未満のクラス規模で95.4%であった。「かなりそう思う」の割合は、クラス規模が大きくなるにつれ満足度は低下し、300名を超えると上昇する。

50名未満のクラス規模で満足度が最大となる理由として考えられるのは、小規模の方が学生への理解配慮が行き届きやすいことや、教員と学生間のコミュニケーションの取りやすいこと等があげられる。

一方、300名を超えると増加するという点については、「人気がある授業だから履修を希望する学生が集中した」とも考えられる。しかし、大人数授業において実践された教員の働きかけについて、学生や教員に聴取し、全学的に共有することは今後の更なる改善につながるといえる。

【学生の満足度(学年別)】

「そう思う(計)」が最も高かったのは「4年」(93.1%)で、最も低かったのは「2年」(87.9%)だった。

【学生の満足度(学科別)】

「そう思う(計)」が最も高かった学科は「法律学科政治専攻」(93.6%)で、最も低かったのは「法律学科法律専門職専攻」(90.6%)であったが、学科による大きな差異はみられなかった。

【学生の満足度(曜日・時限別)】

「そう思う(計)」が最も高かった曜日は「土曜」(92.8%)で、最も低かったのは「月曜」(85.9%)であったが、曜日による大きな差異はみられなかった。

「そう思う(計)」が最も高かった時限は「7時限」(96.5%)で、最も低かったのは「1時限」(86.3%)であった。時限による大きな差異はみられなかった。

【学生の満足度(科目区分別)】

必修科目(政治専攻のみ)と選択科目の間で、やや差がみられた。「そう思う(計)」について、必修科目が7.8ポイント高かった。

【学生の満足度と他の項目との相関】

上位5項目は、次のとおりであった。

総合満足度と、「授業テーマへの関心度」「全体理解度」は、関係性があることがわかる。特に「授業テーマへの関心度」との間には、高い相関がみられる。

問G. 授業テーマへの関心度	0.7916
問F. 全体理解度	0.7134
問A. 講義の聞き取りやすさ	0.6229
問B. 板書・教材の理解	0.6088
問C. 教員の意欲度	0.5604

<経済学部>

●回答者プロフィール

【出席率】

経済学部の出席状況は、全て出席38.7%、ほとんど出席47.7%、2/3程度出席11.6%、半分くらい出席1.4%、1/3程度出席0.3%、ほとんど出席せず0.2%であった。

●学生の理解度評価：各項目別

【学生の理解度(学部全体)】

「そう思う(計)」「かなりそう思う」+「そう思う」、以下同じ)は、87.6%で平均をややや下回っている。また、「思わない」と回答した学生は、1.9%で平均をややや上回っている。

【学生の理解度(クラス規模別)】

「そう思う(計)」は50名未満のクラス規模で92.5%と最も高く、クラス規模が大きくなるにつれ理解度が低下するが、300名を超えると上昇する。

50名未満のクラス規模で理解度が最大となる理由として考えられるのは、小規模の方が学生への理解配慮が行き届きやすいことや、教員と学生間のコミュニケーションの取りやすいこと等があげられる。

一方、300名を超えると上昇するという点については、「人気がある授業だから履修を希望する学生が集中した」とも考えられる。しかし、多人数授業において実践された教員の働きかけについて、学生や教員に聴取し、全学的に共有することは今後の更なる改善につながるといえる。

【学生の理解度(学年別)】

「そう思う(計)」が最も高かったのは「4年」(90.9%)で、最も低かったのは「1年」(83.8%)だった。学年が上がるにつれ、理解度は高くなる傾向にある。

【学生の理解度(学科別)】

「そう思う(計)」が最も高かった学科は「経済ネットワーク学科」(88.0%)で、最も低かったのは「経営学科」(87.4%)であった。学科による差異は、ほとんどみられなかった。

【学生の理解度(曜日・時限別)】

「そう思う(計)」が最も高かった曜日は「土曜」(91.8%)で、最も低かったのは「月曜」(85.6%)であったが、曜日による差異の特徴はみられなかった。

「そう思う(計)」が最も高かった時限は「6時限」(89.0%)、最も低かったのは「7時限」(75.7%)であった。7時限目のみ他の時限より低く、経済学部の「そう思う(計)」全体平均(87.6%)と比較して11.9ポイント低い。

【学生の理解度(科目区分別)】

経済学部では、必修科目と選択科目の間に、大きな差異はみられなかった。

【学生の理解度と他の項目との相関】

上位5項目は次のとおりであった。

理解度と、「授業テーマへの関心度」「総合満足度」は、関係性があることがわかる。特に「授業テーマへの関心度」との間には、高い相関がある。

問G. 授業テーマへの関心度	0.7291
問H. 総合満足度	0.7099
問E. 授業への意欲度	0.6108
問A. 講義の聞き取りやすさ	0.5843
問B. 板書・教材の理解	0.5720

●学生の満足度評価：各項目別

【学生の満足度(学部全体)】

「そう思う(計)」(「かなりそう思う」+「そう思う」、以下同じ)は91.2%で、平均をやや下回った。また、「思わない」と回答した学生は2.0%で、平均をやや上回った。

【学生の満足度(クラス規模別)】

「そう思う(計)」は、50名未満のクラス規模で95.0%と最も高く、クラス規模が大きくなるにつれ満足度は低下し、300名を超えると上昇する。

50名未満のクラス規模で満足度が最大となる理由として考えられるのは、小規模の方が学生への理解配慮が行き届きやすいことや、教員と学生間のコミュニケーションの取りやすいこと等があげられる。

一方、300名を超えると増加するという点については、「人気がある授業だから履修を希望する学生が集中した」とも考えられる。しかし、多人数授業において実践された教員の働きかけについて、学生や教員に聴取し、全学的に共有することは今後の更なる改善につながるといえる。

【学生の満足度(学年別)】

「そう思う(計)」が最も高かったのは「4年」(94.1%)で、最も低かったのは「1年」(88.8%)だった。学年が上がるにつれ、満足度は高くなる傾向にある。

【学生の満足度(学科別)】

「そう思う(計)」が最も高かった学科は「経済ネットワーク学科」(92.4%)で、最も低かったのは「経済学科」(91.0%)であったが、学科による大きな差異はみられなかった。

【学生の満足度(曜日・時限別)】

「そう思う(計)」が最も高かった曜日は「土曜」(96.8%)で、最も低かったのは「月曜」(89.7%)であったが、曜日による差異の特徴はみられなかった。

「そう思う(計)」が最も高かった時限は「6時限」(93.5%)で、最も低かったのは「7時限」(89.2%)であったが、時限による大きな差異はみられなかった。

【学生の満足度(科目区分別)】

「そう思う(計)」は、選択科目が必修科目より1.7ポイント高く、大きな差異はみられなかった。

【学生の満足度と他の項目との相関】

上位5項目は、次のとおりであった。

総合満足度と、「授業テーマへの関心度」「全体理解度」は、関係性があることがわかる。特に「授業テーマへの関心度」との間には、高い相関がみられる。

問G. 授業テーマへの関心度	0.7860
問F. 全体理解度	0.7099
問A. 講義の聞き取りやすさ	0.6385
問B. 板書・教材の理解	0.6201
問C. 教員の意欲度	0.5921

<神道文化学部>

●回答者プロフィール

【出席率】

神道文化学部の出席状況は、全て出席37.1%、ほとんど出席48.9%、2/3程度出席12.4%、半分くらい出席1.1%、1/3程度出席0.3%、ほとんど出席せず0.2%であった。

●学生の理解度評価：各項目別

【学生の理解度(学部全体)】

「そう思う(計)」(「かなりそう思う」+「そう思う」、以下同じ)は87.7%と、平均をやや下回っている。「思わない」と回答した学生は1.6%で、平均とほぼ同じであった。

【学生の理解度(クラス規模別)】

「そう思う(計)」が最も高いのは、300名以上のクラス規模で94.8%。次に高いのは、50名未満のクラス規模で93.3%だった。他の4学部においては、50名以下のクラス規模が最も高い割合を示すが、神道文化学部は、1.5%の僅差ではあるが、300名以上のクラス規模が最も高かった。

【学生の理解度(学年別)】

「そう思う(計)」が最も高かったのは「4年」(93.5%)で、最も低かったのは「1年」(82.1%)だった。「1年」は、他の学年と比べて、理解度がやや低い傾向であった。

【学生の理解度(学科別)】

神道文化学科は、(昼)と(夜)の2区分のみ。「神道文化学科(昼)」の「そう思う(計)」は87.6%、「神道文化学科(夜)」は、85.7%であった。双方に、大きな差異は、みられなかった。

【学生の理解度(曜日・時限別)】

「そう思う(計)」が最も高かった曜日は「土曜」(91.9%)で、最も低かったのは「月曜」(84.7%)であった。曜日により、ややばらつきがみられる。

「そう思う(計)」が最も高かった時限は「1時限」(92.8%)で、最も低かったのは「3時限」(83.0%)であったが、時限による大きな差異はみられなかった。

【学生の理解度(科目区分別)】

神道文化学部では、必修科目と選択科目の間に、大きな差異はみられなかった。

【学生の理解度と他の項目との相関】

上位5項目は次のとおりであった。

理解度と、「授業テーマへの関心度」「総合満足度」は、関係性があることがわかる。

問G. 授業テーマへの関心度	0.6906
問H. 総合満足度	0.6697
問E. 授業への意欲度	0.6144
問A. 講義の聞き取りやすさ	0.5892
問B. 板書・教材の理解	0.5770

●学生の満足度評価：各項目別

【学生の満足度(学部全体)】

「そう思う(計)」(「かなりそう思う」+「そう思う」、以下同じ)は93.5%で、文学部とならび、最も高かった。また、「思わない」と回答した学生は1.5%で、平均をやや下回った。

【学生の満足度(クラス規模別)】

「そう思う(計)」は、50名未満のクラス規模が最も高く、96.7%であった。クラス規模が大きくなるにつれ満足度は低下し、300名を超えると上昇する。50名未満のクラス規模で満足度が最大となる理由として考えられるのは、小規模の方が学生への理解配慮が行き届きやすいことや、教員と学生間のコミュニケーションの取りやすいこと等があげられる。

一方、300名を超えると増加するという点については、「人気がある授業だから履修を希望する学生が集中した」とも考えられる。しかし、多人数授業において実践された教員の働きかけについて、学生や教員に聴取し、全学的に共有することは今後の更なる改善につながるといえる。

【学生の満足度(学年別)】

「そう思う(計)」が最も高かったのは「4年」(97.0%)で、最も低かったのは「1年」(90.3%)だった。学年が上がるにつれ、満足度は高くなる傾向にある。

また、全ての学年で、「そう思う(計)」が90%を超えている。

【学生の満足度(学科別)】

「神道文化学科(夜)」の「そう思う(計)」は、(92.5%)、「神道文化学科(昼)」(92.0%)であった。「神道文化学科(昼)」と「神道文化学科(夜)」の間に大きな差異は、みられなかった。

【学生の満足度(曜日・時限別)】

「そう思う(計)」が最も高かった曜日は「水曜」(95.7%)で、最も低かったのは「木曜」(89.9%)であったが、曜日による大きな差異はみられなかった。

「そう思う(計)」が最も高かった時限は「1時限」(95.9%)で、最も低かったのは「3時限」(89.2%)であったが、時限による大きな差異はみられなかった。

【学生の満足度(科目区分別)】

専攻科必修科目と、専攻科選択科目で、「そう思う(計)」に、大きな差はみられなかった。必修科目は、選択科目よりやや高く、1.8ポイント差であった。

【学生の満足度と他の項目との相関】

上位5項目は、次のとおりであった。

総合満足度と、「授業テーマへの関心度」「全体理解度」は、関係性があることがわかる。特に「授業テーマへの関心度」との間には、高い相関がみられる。

問G. 授業テーマへの関心度	0.7956
問F. 全体理解度	0.6697
問A. 講義の聞き取りやすさ	0.6407
問B. 板書・教材の理解	0.6191
問C. 教員の意欲度	0.5860

<人間開発学部>

●回答者プロフィール

【出席率】

人間開発学部の出席状況は、全て出席46.0%、ほとんど出席44.8%、2/3程度出席8.4%、半分くらい出席0.7%、1/3程度出席0.1%、ほとんど出席せず0.1%以下であった。

●学生の理解度評価：各項目別

【学生の理解度(学部全体)】

「そう思う(計)」「かなりそう思う」+「そう思う」は90.8%と、全学部中最も高かった。また、「思わない」と回答した学生は1.3%と、こちらは全学部中最も低かった。

これは、人間開発学部は、3学科ともに小規模クラスが多いことや、「ルーム制」を実施している影響とみられる。

【学生の理解度(クラス規模別)】

「そう思う(計)」は50名未満のクラス規模で97.2%と最も高く、クラス規模が大きくなるにつれて理解度は低くなる。50名未満のクラス規模が最も高くなる理由として考えられるのは、小規模の方が学生への理解配慮などが行き届きやすいことや、教員と学生間のコミュニケーションがとりやすいこと等があげられる。

【学生の理解度(学年別)】

「そう思う(計)」が最も高かったのは「4年」(96.7%)で、最も低かったのは「1年」(88.3%)だった。学年が上がるにつれ、理解度は高くなる傾向にある。「そう思う(計)」の平均が90%を超えた唯一の学部である。

【学生の理解度(学科別)】

「そう思う(計)」が最も高かった学科は「初等教育学科」(90.4%)で、最も低かったのは「子ども支援学科」(89.3%)であった。学科による差異は、みられなかった。

【学生の理解度(曜日・時限別)】

「そう思う(計)」が最も高かった曜日は「土曜」(95.1%)で、最も低かったのは「月曜」(84.7%)であった。曜日により、ややばらつきがみられる。

「そう思う(計)」が最も高かった時限は「5時限」(95.6%)で、最も低かったのは「3時限」(89.3%)であった。時限による大きな差異はみられなかった。

【学生の理解度(科目区分別)】

必修科目と選択科目の間に、差異がみられた。「そう思う(計)」について、いずれの学科も、必修科目より選択科目のほうが、高かった。

その差は、初等教育学科では7.1ポイント、健康体育学科では12.9ポイント、子ども支援学科では4.2ポイントであった。

【学生の理解度と他の項目との相関】

上位5項目は次のとおりであった。

理解度と、「授業テーマへの関心度」「総合満足度」は、関係性があることがわかる。特に「授業テーマへの関心度」との間には、高い相関がある。

問G. 授業テーマへの関心度	0.7360
問H. 総合満足度	0.6975
問A. 講義の聞き取りやすさ	0.6112
問B. 板書・教材の理解	0.6041
問E. 授業への意欲度	0.5422

●学生の満足度評価：各項目別

【学生の満足度(学部全体)】

「そう思う(計)」(「かなりそう思う」+「そう思う」、以下同じ)は92.4%で、平均とほぼ同じだった。また、「思わない」と回答した学生は、1.5%で平均をやや下回った。

【学生の満足度(クラス規模別)】

「そう思う(計)」は、50名未満のクラス規模で96.7%と最も高かった。

50名未満のクラス規模で満足度が最大となる理由として考えられるのは、小規模の方が学生への理解配慮が行き届きやすいことや、教員と学生間のコミュニケーションの取りやすいこと等があげられる。

【学生の満足度(学年別)】

「そう思う(計)」が最も高かったのは「4年」(98.1%)で、最も低かったのは「1年」(91.5%)だった。学年が上がるにつれ、満足度は高くなる傾向にある。

全ての学年で、「そう思う(計)」が90%を超えている。

【学生の満足度(学科別)】

「そう思う(計)」が最も高かった学科は「子ども支援学科」(92.2%)で、最も低かったのは「健康体育学科」(90.7%)であったが、学科による大きな差異はみられなかった。

【学生の満足度(曜日・時限別)】

「そう思う(計)」が最も高かった曜日は「土曜」(95.1%)で、最も低かったのは「月曜」(87.8%)であった。曜日による大きな差異はみられなかった。

「そう思う(計)」が最も高かった時限は「5時限」(96.2%)で、最も低かったのは「3時限」(91.1%)であった。時限による大きな差異はみられなかった。

【学生の満足度(科目区分別)】

「そう思う(計)」は、いずれの学科も選択科目が必修科目より高かった。初等教育学科は、6.1ポイント差、子ども支援学科は、3.7ポイント差であった。健康体育学科は、他学部学科を含めても最も差が大きく、10.6ポイント差だった。

【学生の満足度と他の項目との相関】

上位5項目は、次のとおりであった。

総合満足度と、「授業テーマへの関心度」「全体理解度」は、関係性があることがわかる。特に「授業テーマへの関心度」との間には、高い相関がみられる。

問G. 授業テーマへの関心度	0.8023
問F. 全体理解度	0.6975
問B. 板書・教材の理解	0.6326
問A. 講義の聞き取りやすさ	0.6296
問C. 教員の意欲度	0.5875

<教養総合科目>

●理解度

【学生の理解度(科目区分別)】

「そう思う(計)」について、「教養総合実技」(97.6%)が最も高く、次いで「教職課程」(94.6%)、「教養総合演習」(94.0%)、「博物館学課程」(92.8%)、「別科必修」(90.0%)のスコアが高かった。
また、「社会教育主事課程」(65.0%)が最も低かった。

【学生の理解度(科目別)】

教養総合科目の科目ベストを分析すると以下のとおりである。回答数50人以上(対象196科目)で、全体理解度(問F)の「そう思う(計)」が95.0%以上の科目(52科目)を抽出した。

Ad English (com)
English II (Business I)
English II (Business II)
English II (神道英語 I)
English II (神道英語 II)
Ad English (検定英語)
中国語中級 B I
中国語中級 B II
スポーツ・身体文化 I A
スポーツ・身体文化 I B
基礎日本語 (リテラシー)
基礎日本語 (文章表現)
基礎日本語 (定型文 I)
基礎日本語 (定型文 II)
基礎日本語 (定型文 III)
基礎日本語 (小論文 I)
基礎日本語 (小論文 II)
コンピュータ技術演習 (活用入門)
コンピュータ技術演習 (データ処理)
日本の基層文化 (現代日本社会の「神道」)
生活と文化 (京の祭りと信仰)
生活と文化 (フランス語圏の文化)
人間と社会 (歴史に見るリーダーシップ論)
人間と社会 (子どもの発達と現代社会)
人間と社会 (子どもの人権と福祉)
人間と社会 (子どもの学びと教師の役割)

人間と社会 (司法制度論)
人間と社会 (家族の中の子どもの育ち)
人間と社会 (イスラームの宗教と文化)
人間と社会 (子ども理解のための心理学)
人間と社会 (障害者の理解と支援)
心性と思想 (文学教材再考)
心性と思想 (聴覚障害者の文化と手話学)
心性と思想 (西洋美術史概説 II)
心性と思想 (言語・心理・催眠 I)
心性と思想 (インド神話と文化 II)
教職論
国語科教育法 II
社会科教育法 (4)
社会科・地理歴史科教育法
社会科・公民科教育法
道徳教育の理論と方法 (中・高)
特別活動の理論と方法 (中・高)
生徒指導 (中・高)
教職実践演習
教育実習 I A (事前指導)
図書館情報資源概論
博物館概論
博物館経営論
博物館実習 IV
博物館資料論
教育相談

●満足度

【学生の満足度(科目区分別)】

「そう思う(計)」について、「別科必修」(98.5%)が最も高く、次いで「教養総合実技」(97.4%)、「教養総合演習」(96.9%)、「教職課程」(96.5%)、「図書館学課程」(95.4%)のスコアが高かった。

また、「社会教育主事課程」(74.0%)が最も低かった。

【学生の満足度(科目別)】

教養総合科目の科目ベストを分析すると以下のとおりである。回答数50人以上(対象196科目)で、全体満足度(問H)の「そう思う(計)」が97.0%以上の科目(55科目)を抽出した。

Ad English (com)
English II (Business I)
English II (Business II)
English II (神道英語 I)
コリア語初級 I
中国語基礎 B II
中国語初級 II
スポーツ・身体文化 I A
基礎日本語 (文章表現)
基礎日本語 (定型文 II)
基礎日本語 (定型文 III)
基礎日本語 (小論文 I)
基礎日本語 (小論文 II)
コンピュータ技術演習 (活用入門)
コンピュータ技術演習 (メディア発信)
コンピュータ技術演習 (データ処理)
生活と文化 (近現代短歌概観)
生活と文化 (京の祭りと信仰)
生活と文化 (英米のポピュラー音楽)
生活と文化 (フランス語圏の文化)
生活と文化 (フランスの文化)
生活と文化 (オーストリアその都市と文化)
生活と文化 (『源氏物語』を読む I)
人間と社会 (歴史に見るリーダーシップ論)
人間と社会 (社会構造の変化と子育て)
人間と社会 (子どもの発達と現代社会)
人間と社会 (子どもの人権と福祉)
人間と社会 (司法制度論)

人間と社会 (現代日本社会の「宗教」)
人間と社会 (ホワイトカラー犯罪)
人間と社会 (子ども理解のための心理学)
人間と社会 (障害者の理解と支援)
心性と思想 (文学教材再考)
心性と思想 (東西美術交流史 I)
心性と思想 (聴覚障害者の文化と手話学)
心性と思想 (西洋美術史概説 II)
心性と思想 (言語・心理・催眠 I)
心性と思想 (ヨーロッパ文化史 I)
心性と思想 (インド神話と文化 II)
環境と技術 (動物の歴史とヒトへの歩み)
教職論
国語科教育法 II
社会科教育法 (4)
社会科・地理歴史科教育法
社会科・公民科教育法
道徳教育の理論と方法 (中・高)
特別活動の理論と方法 (中・高)
生徒指導 (中・高)
教職実践演習
教育実習 I A (事前指導)
情報資源組織演習 II
博物館経営論
博物館実習 IV
博物館資料論
教育相談